

## 研究背景

### 高解像度音源の登場



従来



高解像度音源

物理的に解像度が上昇  
→現場の音のような再現性

### 課題点

- ・手軽に音楽を聴く方式の普及
- ・高価格, 高品位にもかかわらず  
従来音質との聴感上の差異がわかりづらい

High quality?



-本研究では-  
音質評価にて  
差異知覚の音響特性把握

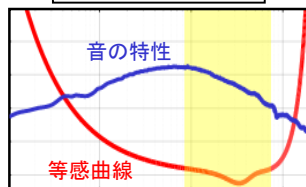


適切な情報量による  
効率的な高音質音源の提案

## 研究内容

### 音質評価

#### 特性分析



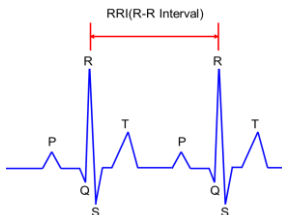
時間特性  
F特性  
信号差分

#### 官能評価



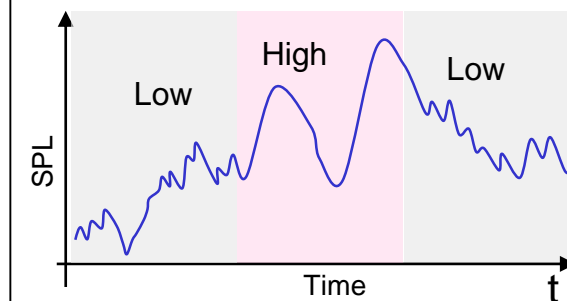
SD法  
一対比較法

#### 生体評価



心電図  
脳活性化度

### 量子化ビット数変動音の開発



音源へ適用

検証評価